

檢テ仰カンノミ

完

◎朽木縣地方病續報 (續)

在朽大 徳木有隣速

予前日十二指腸巨口蟲病ノ本縣地方病タルヲ貴會ニ寄稿スルト同時ニ本縣宇都宮町日々刊行ノ下野新聞ニモ投書シテ本病ハ朽木縣就中那須郡地方ニ夥シク存在スルヲ及ヒ其一般症狀豫防法等ヲ零記シ當局者ニ向ツテ本病ノ輕視スヘカラサル注意ヲ喚起スルヤ機敏ナル本縣廳内第三課即チ衛生課ヨリ去ル六月廿九日附テ以テ本郡ノ主ナル各醫師ノ許ニ左ノ數ク條ノ問題ヲ照會セラレタリ

- 第一 該病發生ノ年月
- 第二 初發ヨリノ患者數
- 第三 初發ヨリ蔓延ノ模様
- 第四 現今流行ノ模様

第五 病狀及發病ヨリ轉歸迄ノ日數概要

第六 患者治癒死亡比較數

第七 本年一月以來施治患者ノ住所氏名年齡

第八 豫防法案

依テ予ハ以上ノ問題ニ對シ早々之カ調査ヲ遂ケ七月四日衛生課ニ差出シタル應答ヲ茲ニ列記シ以テ又々本會ニ寄セ貴重ナル新紙ノ餘白ヲ汚シテ會員諸君ノ參考ニ供シ兼テ實驗上ノ警戒ス可キ點ヲ擧ゲ之ヲモ報導セント欲ス予カ一片ノ婆心幸ニ捨ルナクンハ幸甚

第一答 本病ハ壹百年前ヨリ有リシコハ確實ナリ是レ予ノ隣家阿見市太氏宅ハ從來當黒羽藩主ノ御殿醫ノ家族ニシテ今ヨ三代目「あを」(あをばれ零語)藥即チ本病ノ治療藥ヲ發賣セラレ、ニ由リテ明ナリ依テ同氏ニ就テ之ヲ質スニ丁度百年間ノ久シキ發賣セル諸種ノ帳簿及本病々狀錄ヲ示サレタリ但シ其賣藥ハ硫酸鉄ニ苦味

藥ヲ加ヘテ丸劑トセシモノナリ

當地方ノ老醫ニ尋ヌルニ本病ハ古ク二百年前ヨリアルカ如シト或ハ當地故老ニ問フニ既往ニ溯レハ尙ホ三百年前ヨリアルモノ、如シト云ヘリ

第二答 明治廿四年六月本院創立以來廿六年二月迄施療ノ患者ハ二百九十二名ヲ算シ内百四十名ハ學友毛利君ノ診セルモノニシテ其他過半ハ予カ實驗ニ係ル而ノ予ハ本年三月ヨリ六月迄四十名以上ヲ診斷セシテ以テ兩者ヲ合計スルニ其數貳ケ年間ニ三百三十餘名ニ達ス實ニ多數ト云ハサルヲ得ス

第三答 従前當黒羽地方ニ限レルト稱セシカ今日ニ至リテハ所々ニ本病患者ヲ發見スルニヨリ漸次諸方ニ瀾蔓セルモノト看做スモ可ナリ然レハ左程傳擲力ノ大ナルモノニ非ス現ニ本病ハ那須郡那珂河ニ沿ヒテ多ク存スルカ如シ(本會報告第百五十六號地圖參照)

「リテラツール」ヲ探ルニ病毒傳擲ノ事實ハ「ライヒテンステルン」及「ツボア」兩氏ノ報告セシカ如ク本病者ノ移住地ニ本病ヲ蕃殖增加スルノ實例ヲ以テ知ル可シ又「アラジリヤ」國ニ小兒ニ本病者ノ多キハ匍行シテ土泥ニ汚染シタル不潔手指モテ玩物ヲ弄スル等ヨリ蟲卵進入ノ媒介トナルヲ唱ヘ且ツ古昔埃及國ニ本病ノ猖獗ヲ極メシハ同國ニ有名ナル定時性洪水アリテ幼蟲ノ所々ニ散蔓スルニ由ルトノ諸例ニ徴シテ明瞭ナリ

第四答 現今ハ患者幾分ノ減少ヲ來シ、カ如シ即チ本院ニ於テ明治廿四年六月ヨリ許多ノ患者ヲ全治セシメタルノミナラス治癒者ニハ必ス飲料水ニ就テ懇諭シ並ニ蔬菜ヲ生食セサル様又ハ食時ニ手指ヲ清潔ニナス等ヲ諭告セシト亦之ニ與リテカアリトスルモ敢テ誇言ニ非ラサルヘシ當今ハ流行ト唱フルヨリハ寧ロ散在性トス呼フヲ穩當トス

第五答 症狀ハ一般貧血症狀ニ異ナラスシテ漸次高等ニ至ルモノナリ其發病スルヤ一ヶ月乃至二ヶ月ノ潜伏期ヲ要シ次テ食慾亢進(貪食)ヲ來ス。廿日以上卅日間ニ亘リ轉シテ消化不良トナリ次第ニ食味ヲ減シ胃部停滯ノ感ヲ發シ嗜食スル者アリ未タ數日ヲ經サルニ迨々顏貌、耳朶、爪下、結膜裏面ニ貧血ヲ呈シ心悸亢進ヲ覺ヘ婦人ハ月經不調トナリ遂ニ全ク閉止スルニ至ル又男女共夜盲ヲ併發シ食慾減損シ些少ノ働作ヲ爲スモ心動頻數呼吸促進ヲ以テ心神不安ヲ訴フ之レ尤モ患者ノ苦惱トスル所ナリ但シ夜盲ハ夫ノ農夫ノ晴天ニ際シ郊外ニ耕作セルヨリ網膜ノ強キ光線ニ感受シ網膜性眼精疲勞ヲ起シ久時ニ亘ラサル者ナリ予ハ腦貧血ニ由テ卒倒セルモノヲ屢々實驗セリ

學友平野其夫君ハ夜盲症ハ十%以上アリトノコナレハ前報告ノ二%ヲ訂正ス患者尙ホ月數ヲ重ヌルキハ貧血

症狀顯著トナリ心悸旺盛シ心音ハ無機質的雜音ヲ發シ顫動脈音ハ或ハ獨樂音ヲ發シ通例知覺過敏及異常ヲ呈シ偏頭痛、前頭痛、胃痛、坐骨神經痛ヲ發スルコト許多ナリ發病ヨリ轉歸迄ノ日數ハ種々ニシテ一定セサレ且慢性ニ經過シ比較的能ク生命ヲ保續スルニ似タリ又輕重ニ關シテ經過像後ニ差違アリ

最モ輕症ハ患者自ラ健康ナリト信シテ疑ハス然レ且余輩ノ望診上該患アルヲ認定シ以テ糞便ヲ檢査スレハ此ノ如キモノニ於テモ往々ニシテ卵子ヲ發見スルコトアリ故ニ流行地方ニ於テ精密ニ健體診査ヲ行ハ、殆ント健人ナキノ部落アラント信ス

之ニ次クハ胃症候ヲ訴フルニ過キサルモノ是ナリ然レ且此患者ノ一度ヒ急性熱性病或ハ他ノ重症疾患ニ係ルキハ抗抵力極メテ薄弱ナルカ故ニ不慮ノ不幸ナル轉歸ヲ招クコトアリ是レ屢々余輩及學友平野君ノ實驗セシ所

ニシテ加フルニ常人ニ比スレハ恢復期極メテ遅延スル  
 ナ常トス又婦人ニ在リテハ往々産後浮腫症ニ罹リ遂ニ  
 斃ル、トアリ平野君ハ婦女子ノ平常ハ健康ニシテ善餓  
 症ノ他ハ月經寡少ナルニ止リ妊娠時ニ際シ甫メテ貧血  
 症候ヲ呈スルヲ實驗セラレ且ツ産後浮腫症ニ罹リ乳汁  
 分泌不充分トナリシヲ見ラレタリ其際化膿性角膜炎ヲ  
 發シ哺乳ヲ廢スレハ漸ク健康ニ復シ再度ノ妊娠時ニ至  
 リ再燃スルモ許多ナリト云ヘリ  
 中等症ハ數年乃至數十年ヲ經過シ老衰期ニ及ンテ他ノ  
 合併症或ハ本症増進シテ死地ニ着クモノアリ  
 重症ハ發病後一年以内ニシテ全身浮腫、呼吸促進、心動  
 微弱、腹水ヲ發シ遂ニ衰脱ニ陥リ或ハ腦貧血ニ由テ斃  
 ル  
 要スルニ發病ヨリ死ニ至ルノ日數長短ハ患者ノ体格榮  
 養ノ善良トナルト否トニ關スルハ勿論主トノ虫數ノ多

少、滋養強壯品ヲ攝取スルノ如何及醫療ヲ加フルノ有無  
 ニ由テ非常ニ大ナル差違アリ然レモ虫數ハ一般實驗ニ  
 照スニ初期ニハ少數ニシテ經久症ニ於テ夥多ナルコト  
 「ライヒテンステルン」氏ノ說ニ同シ  
 第六卷 醫療ヲ加フルモノハ全治シ得ルモノナレモ時  
 トシテ半年ナラサルニ再發スルコトアリ之レ治療後飲食  
 物ノ攝生等ヲ遵守セルモノニ在リテハ既ニ蟲卵ノ殘留  
 セルモノ發育ヲ逞フシ新虫ヲ發生シテ貧血症狀ヲ現ス  
 モノト推察セサルヲ得ス或ハ飲食食物ノ攝生ヲ怠ルヨリ  
 又々之ヲ發起スルノ媒介ヲナスコト少カラス之ヲ例スル  
 ニ余輩ハ數月ヲ隔テ、再發ノ症狀ヲ顯出スルモノニ綿  
 馬 X 三、〇宛壹週間而ノ己ニ第三回迄ノ再發ニ對シテ  
 投用セシコトアリ又時トシテ滋養強壯品ニ由テ一時健康  
 ニ恢復スルアリ或ハ自然ニ放置シテ全癒ノ狀態ヲ呈ス  
 ルコト間々之レアリトス此等ハ「ライヒテンステルン」氏

カ『本虫ハ數年間(三四年)人体ニ寄生シテ存在シ最長五年ニシテ八年ヲ超過スルコトナシ其年齡ニ違スレハ雌雄共ニ其生活機能ヲ失シ殊ニ雄虫ハ痛ク其數ヲ減スルモノトス』ト云ヘル說ニ符合ス然リ而ノ醫治ヲ受クルノ后攝生ヲ怠ルキハ更ニ新蟲卵ヲ輸入シ病氣再發シ終生其蟲害ヲ免ル、コトナシ換言スレハ放置スルモノハ自ラ高度ノ貧血ニ陥リ遂ニ斃ル、コト言ヲ俟ス否ラサルモ經過中種々ノ合併症ノ爲メニ死期ヲ促スコアルハ己ニ論述セシ所ナリ

第七卷 本年一月以來施治患者ノ居所ハ本年六月三十日發刊本會報告第百五十六號地圖ニ記載セシモノニ大同小異ナレハ之ヲ省畧ス余ハ同號ヲ縣廳ニ送呈シ一覽ノ便ニ供セリ只茲ニ年齡職業ニ付一言セントス年齡ハ十才ヨリ六十才間ニ在ルモ廿年乃至四十年ニ尤モ多ク職業ハ農ヲ多シトス是レ本病ヲ輸入スルノ場合ハ農ニ

多キ所以ニシテ市民又ハ高等上流ノ人ニ少ナキ所以ナリ西洋ニテモ土工ニ服從スル社會殊ニ燒瓦夫ニ少ナクシテ彼ノ不潔ノ粘土ヲ取扱ヒ工場ニ於テ飲食スル捏夫ニ多キ事實ニ由テ明亮ナリ

第八卷 豫防法案ヲ論スルニ先チ聊カ本虫卵子發育態狀ヲ附記セン本卵細胞ハ雌虫ノ体内ニテ己ニ成熟スルモノアリ卵細胞ノ分割シテ子宮(胎虫)ニ變シ二日乃至四日ニシテ發育ヲ完フシ卵膜ヲ開破シテ幼虫ニ再變ス是ハ母虫ニ類似セスシテ Radialis ニ肖似シ再ビ灰化シタル殻膜ヲ被ルモノトス而シテ幼虫初メハ〇、〇二密迷ノ長サ及〇、〇一五密迷ノ大カチ有シ漸ク發育シテ長徑〇、七——〇、八密迷厚徑〇、〇二四——〇、〇二七密迷ニ達シ常ニ水中ニ存シ人其水ヲ飲用スルキハ幼虫ハ胃ニ至ルモ恐ク「ヒチン」膜ハ全ク侵サル、コトナクニ指腸ニ注キ「トリアシン」液ニ由テ該膜ハ消化セラレ

遊離セル幼虫ハ腸ノ粘膜ニ寄生シテ發育ヲ完フシ遂ニ  
 熟虫トナリテ本病ヲ致スナリ故ニ腸管内ニ於テ獨リ十  
 二指腸管内ノミニ占居セスシテ空腸ニモ存スル多キヲ  
 察知シ得可キヲ以テ豫テ先輩ノ稱フル十二指腸空腸巨  
 口虫病ノ名義ヲ至當トス予ノ實驗ニ由レバ患者毎ニ之  
 ナ檢スルニ虫体血液吸收ノ儘其体内ニ血色ノ線狀ヲ呈  
 セルモノ殆ント全虫數ノ十分一ニ當レリ  
 本病患者ノ糞便中屢々蛔虫卵稀ニハ蟻虫卵ヲ混  
 スルコアリ而シテ往々蟻虫卵ト誤認シ易シト雖蟻虫卵ハ  
 不平長卵圓形ヲナシ其一端ハ稍ヤ扁平ニシテ他端ハ尖  
 銳ナルヲ以テ區別ス蛔虫卵ハ長徑〇・〇五——〇・〇六  
 密迷ヲ有シ二層ノ被膜アリテ外層ハ波濤狀ノ蛋白膜ニ  
 テ被ハルヲ以テ判識シ易シ毛頭虫卵(鞭虫卵)ハ卵圓形  
 ニシテ卵膜ハ二層ニ分レ兩極光輝アル鈕狀突起アリテ  
 容易ク識別ス可シ

本虫ノ形狀、雌雄ノ大小、各直徑ハ雄ノ雌ヨリ排泄シ  
 難キ所以及各種ノ構造ハ小林君ノ記述ニテ到レリ盡セ  
 ルヲ以テ贅セズ只虫數ノ關係ハ「ライヒテンステルン」  
 氏ニ依ルニ雌十ニ付雄二十三ニシテ經久症ハ雌一ニ付  
 雄六ナリ然ルニ熊谷學士ハ雌一ニ付雄二ナリト云ヒ長  
 町學士ハ以上ニ反シ雌十ニ付雄一ノ如シト云ヘリ余輩  
 雌雄ノ區別ニ格別意ヲ留メサレテ殆ントFノ多キヲ知  
 レリ之ヲ判別スルコト容易ナレバ後日其關係ヲ區別セン  
 トス而シテ虫數ハ西洋ニテハ十五乃至三千條ナレバ熊谷  
 學士ハ四條乃至一千〇五十六條ニシテ一名平均四十條  
 ナリトセリ予ハ最多ナルハ二百條ト述タレテ近日六百  
 二十四條アルモノヲ見タリ(以下實驗録ニアリ)  
 本虫ノ構造ハ固有ナルヲ以テ之ヲ鏡下ニ照スキハ一見  
 瞭然タリト雖只肉眼上誤リ易キハ蟻虫ナリ然レテ蟻  
 虫ノ雌ハ純白色ニシテ尾ハ殆ント細銳ニ尖リ且ツ透明

ナリ又雌ハ甚々小ニシテ後部螺旋狀ニ屈曲セルヲ以テ知ル可キナリ其他毛頭虫(鞭虫)至少ノ蛔虫ト混スヘカラス

本虫ノ發育ニ適切ナルハ攝氏卅度乃至卅七度ニシテ養基糞便ハ水便或ハ硬便ヨリハ柔軟ニシテ糜粥狀ナルニ發育シ易シ之ニ反シテ凍寒又ハ攝氏四拾五度ニ在テハ死ニ至リ日光ニ直チニ露出スルモ亦タ發育ヲ弱ムルト云フ

豫防法案ニ就テハ格別ノ好案ナケレバ飲料水及食物調理並ニ飲食時ニ清潔ヲ主トスルヨリ他ナカラン大便ヲ燒棄スルハ實際云フヘクシテ行レサル架空ノ論トス之ニ由テ前日本縣衛生試驗主事大澤駒之助氏製氷檢査用ヲ帶ビ當地出張ノ頃當役場吏員ノ立會ニ際シ予ハ丁度本虫病患者ノ招キニ應シ往診ノ歸路ナリシヲ以テ立寄リ飲料水ノ實況ヲ縷述セシヲアリ若シ本虫所在地ノ井

水不殘顯微鏡檢査ヲ施行スルハ進ンテ檢鏡ノ勞ヲ辭セサルナリ

以上ハ朽木縣廳へ廻送セル答案ニシテ是ヨリ實驗錄ニ移ラン

余ハ俗間本病ニ關係アラント稱スルみづひし症ヲ十數名診スルノ機會ヲ得タリ其發スルヤ多クハ炎熱ノ候晴天ノ日田畑ニ於テ耕作スルニ當リ驟雨ニ遭遇シ忽チニシテ雲雨去リ土壤日射ヲ受ケテ水分ノ蒸發スルニ際シ手指或ハ足趾間ノ皮膚抗抵少ナキ所ニ微痒ヲ覺ユルヲ初トス之ニ由テ俗人ハ該症ニ係リタルヲ知ルト云フ此ノ如キ理由ナルヲ以テ同時ニ多數ノ人之ニ侵サルハ常トス局部ノ瘙痒ハ夜間殊ニ甚シク頻リニ爪搔セサルヲ得ザルヲ以テ遂ニ疼痛ヲ發シ爲メニ前膊又ハ足跗足背下脚ニ熱灼ヲ訴ヘ且ツ甚シク浮腫ヲ來タシ翌日ニ至リ浮腫等ハ輕快スルモ指間趾間ニ疥癬水泡ノ如キヲ多

ク發生シ爪破ニ由テ内容流出セルノ後他部ノ指趾ニ蔓延シ一部全治スレハ從テ他部ニ及ホスモ大抵醫治ヲ求メスシテ一週日ノ終ニ自治スト云フ今此内容ヲ顯微鏡下ニ照スニ虫卵ヲ認定セス又便ヲ擴檢スルモ陰性ナリキ左レハ平野君ノ説明或ハ其當ヲ得タル如クナレ未ダ斷定シ難シ尙ホ經驗ヲ重テ判斷ノ資トナスタメ予ハ左表ヲ作り調査ノ便利ニス

(1) みづむし症ノ發起スル前貧血症狀ノ有無(食欲、

呼吸、心動ノ如何)ノ既往症ヲ問診スルヲ

(2) みづむし症ニ罹リタルモノハ必ス貧血症狀ヲ來

スヤ否

(3) 毎常みづむし患者ノ糞便ヲ顯微鏡的ニ精査スル

ヲ

(4) みづむし症ノ水泡内容ヲ鏡檢スルヲ

其他みづむしハ煙草根ヲ耕作スル農夫又ハ藍畑ヲ作事

スルモノニ多キヲ耳ニス

近頃檉村博士ハ石榴根皮ヲ十二指腸蟲ニ向テ無害最功ノ藥品ナリト稱贊セルヲ讀ミ其効用ヲ試シント欲シ直チニ應用セシニ果ノ幾分ノ蟲体ヲ排除セルニ相違ナシト雖綿馬ノ用法ヲ一層注意スルキハ之カ爲メニ凌駕壓倒シ去ラル可キ程ノ價值ナキヲ信スルニ憚ラサルモノナリ

左ニ綿馬ノ用法ニ付テ謹戒スヘキ場合ニ遇ヒシ二三ノ例ヲ示ス

第一例 那須郡那珂村一女子の年齢廿三今ヲ去ル二年前ヨリ貧血症狀ヲ呈シ漸次増劇シテ醫療ヲ加フルモ全快セス愈々衰弱ヲ増シ心悸甚シク亢進シ呼吸困難食欲減損等ノ症狀ヲ以テ去ル六月二十日予ノ診察所ニ至ル之ヲ診スルニ顔貌蒼白土黃色ヲ呈シ稍ヤ浮腫セルニ似タリ耳朶、口唇、眼瞼結膜、爪下等總テ毫モ血色ヲ認



メス精神沈鬱力量減少シ安靜時トテモ心動旺盛呼吸促迫等ノ爲メニ心身不安ヲ來シ又食慾減損便秘等ヲ訴フ聽診上心音悉ク無機質的雜音ヲ放チ頸動脈騒鳴ヲ帶ヒ一見本症タルヲ豫知セシム是ニ於テ速カニ大便ヲ鏡驗

セシニ果ノ十二指腸蟲ノ卵ヲ非常ニ夥シク視野中ニ認定ス依テ同日ヨリ宿便排泄ヲナシ次日ヨリ左表ノ如ク之ヲ處置セリ

自六月二十日至七月五日

月日	藥品投與量	大便 數 排泄	摘 要
六月廿日	蘆薈一〇「ラバル」末三〇「エキ」 スレヲ以テ丸トナシ二回ニ分服 セシメ兼テ重曹大黃丁幾「メン」 タルノ水服ヲ與フ	5	○
二十一日	綿馬x二「〇」ヲ丸トナシ午前 後二回ニ分服セシメ兼用トシテ蘆 薈〇「八」ラバル「末」二「〇」ヲ丸ト ナシ二回分服ヲ命ス水藥前方	4	○
二十二日	綿馬x及下劑共ニ前ノ如ク二回 分服セシメ水藥モ亦前方ヲ持續	3	○
二十三日 全上		3	綿馬x服用後嘔氣ヲ催シ一回ノ吐アリ又下利スル ニヨリ疲勞ヲ訴フ隣家旅店ノ宿泊所ニ行キテ診察ス
二十四日 全上		5	頭痛疲勞ヲ告ク終日安臥セシム蟲体ノ排泄非常ニ 多ク糞便ハ殆ント蟲体ノ小塊ヲ以テ成レリ
二十五日 全上		4	頰部結膜裏面共ニ血色ヲ現シ心悸稍鎮靜シ
二十六日 全上		3	○

該患者ハ、最、高、度、ノ、貧、血、症、ヲ、現、セ、シ、モ、ノ、ニ、シ、テ、發、病、後、已、  
 ニ、三、年、ニ、亘、リ、蟲、數、ヲ、下、ス、 $\uparrow$ 、六、百、廿、四、條、ノ、多、キ、ニ、達、シ、蟲、  
 數、ノ、此、ノ、如、ク、多、數、ナ、リ、シ、ハ、余、カ、初、メ、テ、實、驗、セ、ル、所、ナ、リ、  
 綿、馬、 $\times$ 、ハ、六、月、廿、一、日、ヨ、リ、三、〇、宛、七、月、一、日、(此、日、ハ、二、

二十七日	全上	4	37	全身症狀佳候ヲ呈シ血色愈現ハレ心動鎮靜シ患者予ノ診察所ニ至ル
二十八日	全上	4	23	一般症狀日ニ佳ナリ
二十九日	全上	3	18	〇
三十日	全上	3	15	食欲進ム明日限リ綿馬 $\times$ ヲ用井后之ヲ廢止スルヲ告ケ蟲体少ナキカ故ニ綿馬 $\times$ ノ量ヲ二〇ニ減ス
七月一日	全上、但シ綿馬 $\times$ ヲ二、〇ニ減シ二回ニ分服セシム	1	7	明日ヨリ綿馬 $\times$ ヲ全廢スルヲトナス
二日	處方ヲ轉シ、「ストリヒニーン」ヲ右顳額部ノ皮下ニ注射シ灌腸ヲ施シ下劑ヲ投シ又平流電氣ノ上行流ヲ通ス			朝起右眼視力稍減退セルヲ覺ヘ眼内及顳額部ニ鈍痛アリ精神異常ナシ、左眼ヲ覆フキハ右瞳孔少シク散大スルモ覆ハサルキハ左右同大ナリ眼底ニハ大ナル異變ヲ認メス
三日	「ストリヒニーン」ヲ注射シ平流電氣ヲ通シ「ホミカ」丁變ヲ服用セシム			〇
四日	全上			〇
五日	全上			今日ニ至リ眼内及眼周圍ノ疼痛去リ視力健全ニ恢復スルヲ得患者欣喜雀躍タリ

〇ヲ用フ)マテ十一日間三二、〇ヲ投シ用後毎回必ス下劑ヲ應用セルヲ以テ毎日三回乃至五回ノ便通アルモ六月三十日摘要録ニ記ス如シ而シテ明七月一日限リ驅蟲藥ハ廢止スルヲ告ケ精神ヲ安慰セシメ全日綿馬 $\times$ ヲ減量

シニ、○チ朝夕二回ニ分服セシメ下劑ヲモ與ヘシカ此日通利僅カニ一回アリシノミニシテ×綿馬ノ排泄不充分ナリシカ爲メ翌日朝少シク視力ニ影響ヲ及ホセリ然レモ幸ニ輕症ナリシカハ五日間ヲ經過シテ全ク恢復スルヲ得余ヲシテ一憂一喜セシメタリ而シテ此患者ノ視力障礙ヲ起セシハ此通利不充分ナルノ外尙ホ一ノ疑團アリ即チ六月廿九日以下ノ綿馬×ハ新タニ藥店ヨリ到着セル品ヲ用ヰタルノ一事是ナリ何者同品ヲ用ヰタル左ノ二患者モ眼球ニ對シ奇異ナル症狀ヲ發顯シタレハチリ

第二例 那須郡黒羽町一女子の 年 齡二十五、一年半前ヨリ漸次貧血症狀ヲ呈シ本病タルヲ確診ス其度ハ中締症ニシテ加療時日ハ第一例ニ同一ナリ

六月廿日宿便ヲ排除スル爲メ下劑ヲ與ヘ四回ノ通利アリ

廿一日午前午後綿馬×一、五宛二回投與シ下劑水劑前例ニ均シ爾後二十八日迄同一ノ處方ヲ持續ス

廿九日前方劑ヲ用ヰシニ眼内異常ノ感アリ且ツ少シク疼痛ヲ帶ヒ眼瞼チバ／＼然タル感覺アリテ痙攣アリ瞳孔眼底異常ナシ

七月一日綿×馬ヲ廢止シ規鐵丸ヲ服用セシメ兼テ重曹二、○大黃丁幾二、○「ホミカ」丁幾二十滴若味丁幾二、○蒸餾水一〇〇、○チ與フ三四日ヲ過キテ眼病洗フカ如ク液散ス

第三例 那須郡湯津上村一男子の 年 齡十八本病ノ輕度ナルモノ

六月廿八日下劑ヲ投シ腸管内容ヲ洗去シ

廿九日綿馬×一、五ヲ投シ下劑ヲ併用ス

三十日綿馬×三、○チ二回ニ分服セシメ毎回下劑ヲ併用シ蟲數百二十條ヲ下ス

七月一日眼球微痛ヲ發シ左右上下ノ運動チナスキハ疼痛増劇スト訴ヘシカ瞳孔眼底ニ變常ヲ認メズ依テ綿馬

ニテ全廢シ強壯劑ヲ用ヰシニ疼痛全ク輕快セリ

右ノ二名ヲ六月二十九日破封セル新瓶内ノ綿馬ニテ用

ヰテ多少眼ノ障碍ヲ呈セルカ故ニ予ハ之ヲ廢棄シテ更

ニ他瓶ノ品ヲ用ユルトセリ蓋シ綿馬酸ノ粗惡ナルニ

由ルカ兎ニ角新タニ開封セル品ハ最初之ヲ使用スルニ

當リ大ニ注意ヲ要スヘキモノナルヲ感シタリ

綿馬ニハ下劑ヲ充分併用スレハ十日間持長スルモ中毒

病狀ヲ來スヲ殆ント之ナシト雖モ衰弱ノ甚シキモノハ

三〇、〇以上ノ持續ハ須ラク熟考スヘキモノトス然レ

モ幾月ヲ經過スルノ後ハ更ニ之ヲ投與スルモ差支ナキ

カ如シ予ハ那須郡大内村ノ一患者S.N. 齡廿二ナルモノ

ニ數ヶ月ヲ隔テ、綿馬ニ三、〇ツ、一週間前後三回

(全量六三、〇) 用ヰシヲアリ故ニ綿馬ニハ數月ヲ隔ル

トキハ蓄積ナキモノナラン勿論下劑ヲ兼用セサルヘカ  
ラス

近日學友某君ヨリ下劑應用ニ就キ疑義ヲ質カレシヲア

リ即チ『衰弱甚シキ患者ニ於テ綿馬ニテ服用セシメ視

力ニ變常ヲ來サレモ下劑ノ爲メ一層衰弱ヲ増シ後服

ヲ中止スル場合屢々之アリ實ニ遺憾ノ至ナリ』トノ事

ナリ依テ予ハ直チニ左ノ如ク答辨セリ『成程衰弱セル

モノハ下劑ヲ服シ疲勞ヲ招クモ大抵驅蟲藥用後四五日

ニシテ患者ノ心忪安靜トナリ爪下等ニ血色ヲ現シ一般

ニ佳候ヲ來スモノナレバ尙ホ下劑ヲ連用スルモ決シテ

死ヲ致スノ衰弱ヲ來スヲナク却テ精神ノ安ラカナルハ

余ノ常ニ實驗スル所ニシテ且ツ其衰弱ハ綿馬ニト下服

ノ服用ヲ止ムルキハ立ロニ恢復シ得ラル、モノナリ又

場合ハヨリ一旦休藥シテ榮養恢復スルヲ待チ又々驅蟲

法ヲ施スキハ更ニ安全ナリ

今ヤ擱筆スルニ臨ミ某氏ヨリ二三ノ中毒症狀ノ通報ニ  
按シタレハ之ヲ記載シテ諸君ノ注意ヲ惹カントス

一昨年七月一處女齡十八、十日間丸藥(何丸カハ通報  
書ニ記載ナシ)ヲ連用シ猶ホ驅蟲スル爲メ綿馬<sup>ㄨ</sup>六、〇

ヲ卵白上ニ浮ヘ頓服セシメシニ翌日ニ至リ偏眼ニ弱視  
ヲ起セリ依テ後服ヲ止メ強壯劑ヲ與ヘシニ三ヶ月ヲ過  
キテ漸ク健康眼ニ復セリト

又五十五歳ノ男子高度ノ貧血ヲ呈セルモノニ綿馬<sup>ㄨ</sup>  
三、〇宛七日間用井シニ兩眼ニ弱視ヲ發セシ故後服ヲ  
中止シ專ラ強壯劑ヲ用井居レリ(下劑ヲ併用セルヤ否  
知ルニ由ナシ)

此二例ニ於テ弱視ヲ發セシハ一ハ六、〇ノ大量ヲ頓服  
セシメ一ハ下劑ヲ併用セサル爲メナランカ或ハ併用セ  
シモ綿馬<sup>ㄨ</sup>ノ排泄不充分ナリシ爲メカ  
以上ノ記載ヲ總括スレハ左ノ數言ニ過キス

(1) 本縣廳衛生課ニ差出セル答案數件(2)「みづむし」實  
驗說(3)綿馬<sup>ㄨ</sup>用法ニ就テ注意スヘキ二三ノ實例(4)學友  
ニ對シ下劑併用ノ答辨(5)某君ヨリ報告セル中毒症二例  
ナリ

余ハ本病ノ記事ニ就キ後日更ニ調査ノ上又々續報セン  
ト欲ス(完)

記者曰ク報告第五百十六號十二指腸蟲所在地ノ地圖  
中西、鄉村ハ兩<sup>〇</sup>鄉村、金田村中黑澤ハ奥<sup>〇</sup>澤川西村ヲセ  
ハヨセノ誤リナルコトヲ徳木君ヨリ報セラレタルヲ  
以テ茲ニ正誤ス又前號十八頁十三行ノ數日ハ數月ノ  
誤

